

これは、初めて出会う“家族”の物語。  
でも、誰もがいつか出会う“真実”の物語。  
—実話から生まれた、私たち自身の物語。



第37回 日本アカデミー賞最優秀作品賞他 最多6冠『舟を編む』

石井裕也監督 最新作

# ぼくたちの家族

5月24日(土) 公開

特別鑑賞券 1,500円 (税込・当日一般 1,800円 の処) 発売中 ※劇場窓口でお買い求めの方に“オリジナルポストカード”プレゼント(先着限定)

新宿駅東口伊勢丹メンズ館そば  
新宿ピカデリー  
03-5367-1144 www.shinjukupiccadilly.com



妻夫木聡 原田美枝子 池松壮亮 長塚京三  
黒川芽以 ユースケ・サンタマリア 鶴見辰吾 板谷由夏 市川実日子

# ぼくたちの家族

監督・脚本: 石井裕也 (『舟を編む』)

原作: 早見和真「ぼくたちの家族」(幻冬舎文庫)  
製作: 「ぼくたちの家族」製作委員会 配給・宣伝: ファントム・フィルム ©2013 「ぼくたちの家族」製作委員会  
bokutachi-kazoku.com

文部科学省特別選定作品 (青年向き/成人向き/家庭向き)



5.24

# ある日告げられた母の余命、たった7日間。 そして今、ぼくたちは奇跡を信じて動き出す—。

第37回日本アカデミー賞最多6部門他、映画賞を総なめにした『舟を編む』  
石井裕也監督が《家族》に挑んだ最新作



今や国内外から注目される存在となった石井裕也監督が、20代最後の作品に選んだテーマ、それは自身が描き続けてきた〈家族〉。だが、私たちはオープニングからほんの数分で気付く——今まで観てきたどの〈家族映画〉とも、全く違うということに。注目の新進作家・早見和真が、自身の体験をもとに書き上げた原作を、「僕自身の話だ」と驚いたという石井裕也監督が「本気で家族と向き合い、描きたかった」と、家族がもつ〈業〉に全力で挑んで描いた最新作。〈理想〉を壊してむき出しの家族を描き、今までに見たこともないようなリアルな家族映画が誕生した。



実話から生まれた、希望と感動の物語。



二人の息子は社会人と大学生。父と母は郊外の一軒家に住んでいる。だがある日、母・玲子（原田美枝子）に「脳腫瘍」が発見される。すでに末期症状であり、余命1週間を宣告されてしまう。取り乱す父（長塚京三）、言葉をなくす長男の浩介（妻夫木聡）、冷静を装おうとする次男の俊平（池松壮亮）。昨日まで元気だった母に突然訪れた事件。それはやがて、“普通の家族”に潜んでいた秘密、本音を表面化させていく。家族で培ってきたものは「波風をたてない」とことと、見えない借金……どうしようもない。けれど諦めることなんて出来ない。そして男たちは「悪あがき」を決意した—。

本当は私たちは知っている。

家族なんてとっくに壊れていて、かつて抱いた理想の家族像はもうどこにも存在しないということ。

借金だらけなのに、強がりばかりで全く頼りにならない父。

親のすねかじりで、冷めたことばかり言う次男。

引きこもりの過去を持つ、クソ真面目な長男。

そんなダメ男たちが、家族の最大の危機を乗り越えるために初めて団結せざるを得なくなる。

そこには恰好いいヒーローも存在しないし、

〈家族の絆〉という美しい言葉で説明なんてできない。

欠点だらけで不器用な彼らこそが私たちの等身大の姿。

だからこそ、母が欠けてはいけなくて

必死に走り回る姿が私たちの胸を熱くさせ、

今、この家族を心から愛することができるのだ。



妻夫木聡 原田美枝子 池松壮亮 長塚京三  
黒川芽以 ユースケ・サンタマリア 鶴見辰吾 飯谷由夏 市川実日子

監督・脚本：石井裕也（『舟を編む』）原作：早見和真「ぼくたちの家族」（幻冬舎文庫）  
製作：竹内力 小西啓介 狩野善則 堀義貴 木滝和幸 若山泰親

プロデューサー：永井拓郎  
アソシエイト・プロデューサー：鈴木俊明  
撮影：藤澤順一（J.S.C.）照明：金沢正夫  
録音：小松将人 美術：栗山愛 編集：菅崎信一  
音楽：渡邊崇 衣裳：馬場恭子 ヘアメイク：田中マリ子  
装飾：石渡由美 スクリプター：村松愛香  
VFXスーパーバイザー：西尾健太郎 キャスティング：おおざわこ  
助監督：杉田満 制作担当：神田茂樹 企画：RIKプロジェクト  
企画協力：幻冬舎 制作：ホリプロ 制作協力：ギャングスター  
製作：「ぼくたちの家族」製作委員会  
配給・宣伝：ファンタム・フィルム  
©2013「ぼくたちの家族」製作委員会

Twitter: @bokutachikazoku  
bokutachi-kazoku.com

ぼくたちの家族 × HIBIYA-KADAN

タイアップキャンペーン  
“あなたにとって家族とは？”エピソードを  
お寄せください。

詳細はこちら：www.hahanohi.com/bokutachi

日比谷花壇では、母の日や父の日に、  
想いをこめて贈るフラワーギフトを展開しています